

これは世につたえておきたい  
かたっておきたい  
わが胸の底から真実のおもい  
人生幾山河のめぐりあい  
あの日の風やひかり そして空のひとひら  
哀歎のかがり火に生きた幾年月の路  
「自分史図書館」は その証言館です。

### 新刊紹介

○私のつれづれ歴史探訪  
松本 茂 海鳥社刊



松本茂さんはもと久留米での開業医。現在久留米郷土会  
員として、「温故知新」をモ  
ットーに歴史探訪の成果を随  
筆風にまとめられた一冊であ  
る。

歴史の中での南朝北朝の岐  
路を探求された一節。明治天

皇南朝説、そこで宮城前に南朝の忠臣楠木正成の銅像が  
建立されたとか。

隠れキリシタンの里、大刀洗町の今村カトリック教会  
をめぐる考察も興味深く読みとられる。殉教者ジョアン  
又兵衛の信仰などもっとくわしく一代記が描かれたらと  
も思った。キリシタンを主題に「沈黙」などの名作を描  
いた遠藤周作もここまでは眼が及ばなかったのか。彼が  
描いたら名作としてもっとクローズアップされたのでは  
などと思ってもみた。戦後、語られることもなくなった  
「爆弾三勇士」物語なども貴重な解説紹介となっている。  
この一冊は「隠れ筑後郷土史譚」として高く評価したい。

### 受贈詩集

○受贈詩集『時計』より 高松 文樹  
日時計  
ヒトの生活が始まった頃  
太陽の光と棒で影をつくった  
バビロニア東部のカルデア人か  
エジプト人か？ 中国人か  
その発明者は遠い謎である  
欧州ではグノモンと呼ばれ  
中国では土圭と書き  
日本では時計となった  
〔略〕  
塩竈神社の境内に江戸中期の経世家  
林子平がつくった  
わが国の日時計が  
息づく  
日時計は一つの光  
る追憶である



○一筋の道 上村 忠雄  
うぐひすの啼くこゑ交わす竹群は  
眼下にふかし岡城のあと  
庭に散る泰山木の花びらに  
つゆ入り近きときを思へり  
散り初めしさくら花びら風に舞ふ  
春惜しみつつ家路を急ぐ  
ゆつたりとからだ横たふ露天の  
水無月のそら風わたるらし  
くらき径時に差し  
くるうすあかり  
杉の木ぬれの遠花  
火かな  
(大牟田市在住)



### 受贈図書紹介 ㊸

順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。  
あしからずご了承下さい。

- 縄文風土記 ..... 岩本 末治
- 復権か従属か ..... 秋吉久紀夫
- ティンサ ..... 根本百合子
- 風の牧場 ..... 多賀 浪砂

- なんでバイバイするとやか?… ごとうひろし
- あなたの笑顔がみたくて …… 龍一郎・李恵
- 輝くサードエイジへ…九州シニアライフアドバイザー
- 私の人生航路 …… 矢野 一馬 北九州市
- 吉井町商工会史 …… 吉井町商工会
- 五十年史 …… 八女ライオンズクラブ



○ ICU 3期生  
—卒業後50年のあゆみ—

『ICU 3期生』代表、現青山学院大学名誉教授小原信先生の便りが添えられていた。「かねてより貴図書館のお働きに敬意を表しております」図書館日より「ya」の反響と有難く感激致しました。巻頭編集の小原先生は、『ひとは共有している(つもの)過去を確認しあうことで過去がふくらんでくると、新しい元気が湧いてくる。ICUはわれわれにとって「志のふるさと」であり…』とその意図を述べられている。ICUとは、国際基督教大学の略称か？ 内容貴重な同窓会誌。50年の歩みは共に学んだ友の人生自分史でもある。



○ 漂えども沈まず  
松岡 弓祐  
(幻冬社刊)

著者松岡さんは福岡大正7年生まれ。株式会社「ワコウ」の創業者。一代企業家の一代記である。読み始めて、松岡さんの着眼点というものに感心する。博多への旅で「西日本新聞」の夕刊の投書欄が眼にとまる。給食センターに勤めの婦人が重たいエプロンのために腰を痛め、その治療に苦勞しているとのことだ。ここからエプロン改良の縫製関係にとりくみを開始される。ながい実業体験から、松岡さんは「山高ければ谷深し」己を信じて人事を尽くせばなんとかなる。人が困ったという所に必ず仕事の芽があると回顧しながら述べられている。



○ この道泣いて笑って  
藍原 益子  
(文芸社刊)

山梨にあって、保育事業に全身傾注の園長生活体験記。そして歌人。「豊かな自然が私たちのまわりから消えて、ゆっくりと夕焼雲を眺めたり、たんぼの綿毛の行方を見つめたりという時間のゆとりを失っている。生涯を通して瑞々しい感性を失わない努力」を強調されている。

バイバイの声に振り向き  
又ねと言へば二歳児「ゆう」のまたねが返る

名を呼べば高々挙げし右の手の指先希望かかせるごとし

安堵して帰りゆく母親送りて深く息吐くこれでもよかったか



○ 詩集 レモノワール  
— 黒い言葉 —  
井本 元義  
(侃侃房刊)

僕はこの詩集に「黒い言葉」という題をつけた。「レモノワール」である。「白い紙に書かれた黒い言葉、それはありのままの魂」僕はこのモーパッサンの「我らの心」の一文を出典とすることにした。

(※人生遍歴・告白的人生詩集として読まれる)

## 編集掌記

▼50号で、記念特集を企画したところ「黄櫨」の会員野中勝美、平島格、武藤和平、高橋甲四郎様方々より寄稿

をいただいた。ときにこのように、「ya」にも声をかけてくださいますようお願い申し上げます。

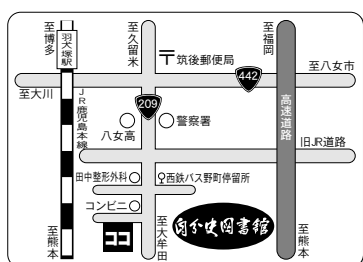
▼「自分史図書館」に司書ボランティアとしてご希望、目下、開館の日をできるだけ多くし計画的に多くの方々の来館をお待ちするようにと、筑後市在住の石橋利徳先生のご高配で進めています。

▼先日、菊池溪谷に廻った。この案内所は菊池の歴史文化をよく紹介されている。南朝を支えた菊池氏の系譜、伊能忠敬の「測量日記」に見られる菊池。

“菊池村老岡三家、籬落秋風見暮鷄”

## 自分史図書館

入館無料  
開館 毎週水曜日  
午前10時～午後3時  
年末年始、お盆、祝祭日は休館  
貸し出しはしていません。



〒833-0032 筑後市野町423-8 TEL・FAX 0942-53-8122  
西鉄バス野町停留所より徒歩5分  
インターネットでもご覧になれます。http://www.jibunshitosyokan



といった頼山陽が詠んだ菊池の風物漢詩、菊池と西南戦争とのかわりあい、徳富蘆花と夫人原田愛子の愛。味わい深い湯のまちに、文化の香りにもひたされるのも味なものである。

(自分史図書館長 椎慈猛)